

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員地域密着型サービスの役割を考えながら「やわらかな空間の中で一人一人の思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます。」を掲げている。	○ 日常生活の中で理念が反映されて始めてその意味が存在する。いまだ理念を意識した取り組みは実行できていない部分がある。理念の意識付けが重要と思う
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念の周知に取り組み日々の業務の中で口に出し、意識し実現に向けて取り組んでいる	○ 各棟の管理者が理念の意味をしっかりと理解し、意識作りと行動力の発揮により、職員への理念達成のための方向性を具体的に示すこと。結果全職員に周知徹底が出来るものと思う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	誰でもいつでも目のつく場所に理念を掲げ、家族へも広報誌等でお知らせしている。また行事の機会に言葉にし多くの方々に理念について理解が得られるよう取り組んでいる。	○ 言葉や文字で伝えていく事と同じように、理念の実現に向けて実際に行動できるよう意識して業務にあたる。日々の業務の中で、その人の暮らしを第一に考えた支援をしていくことが大切。
2. 地域との支えあい			
	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域行事に参加し交流を序々に深めている。一つのつながりから交流の輪が広がり、地域住民との関わりを多くもつよう取り組んでいる。行事や広報誌等で事業所を理解していただき、日常的に気軽に会話を交わすことができるよう感謝の気持ちや挨拶等を意識付けしている。地域行事も年々増やしながら、地域との交流の場を多くしている。また管理者は、地域関係者や、地域の会合に出向き、住民との交流を図りながら互いの情報交換をしている。	○ 認知症の専門性を高める意味でのキャラバンメイトになることもよいかと思う。また地域の行事の手伝いや地域へのボランティア活動をおこなう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実現するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等で評価の意義やどのようにいかしていくか等の説明をしている。改善策の具体的な取り組みに努めているが、不十分な部分がある。	○	自己評価を行ったその後の取り組みを各同でどうしたらよいか、皆で問題点等を共有し、建設的に話合うことが大事。その改善点を具体的に取組むことが出来るか・・・によって自己評価の意義があると思う。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しよい雰囲気の中で積極的な意見をいただきサービス提供につなげている。今年度は委員を増員しより多くの関わりの中からサービス向上を目指している。	○	会議に欠席した委員の方からも意見をいただけるよう資料をとどけた際に意見をいただく時間を設ける。会議の参加だけではなく、施設の行事等への参加により実際に施設の状況を見てもらう取り組みをする。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議に村の関係者が毎回出席していただき、情報提供やサービス向上への意見等を積極的に出している。また日頃お互いに行き来したり連絡を取り合い情報の共有に努め、お互い連携で取り組む体制は整っていると思う。	○	地域全体で認知症を支えるという視点で、広報誌で施設をPRすると共に、自治体との連携強化を図る。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会を通し学ぶ機会を持つにはいるが、現在必要とする方がいないこともあり、制度に対する意識は薄い。	○	まだ理解はたりないと思う。今後も勉強の場を設け学んでいかなければならない。いつどのような立場の入居者でも最善の支援が出来るよう今後は全職員学ぶ機会を持つ必要がある。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修報告等の中で虐待についてな何度か報告されている。職員もそのことを意識して入居者に接していると思うが、全職員が細かいところまでは理解しているとはいえないため今後は学びを多くし、今以上に虐待防止に取り組んでいく。	○	日々の業務の中で全職員が虐待の意味をしっかりと認識した中でサービス提供ができるよう、一丸となって虐待防止に努める。どんなささいなことでも入居者の状況を共有し、未然に防ぐ体制を整備する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手が理解できるようわかりやすく説明はしている。不明点や疑問点にはその都度説明し理解と納得していただくようつとめている。家族が言いやすい雰囲気の中で進めていく。	○	契約内容について、確実に理解し知識を広め、質問等だされたときに、きちんと説明ができるようにする。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションの中で意見や気持ちを聞きだすことに努め、職員全体で運営に反映できるよう取り組んでいる。日常会話を豊富にし、入居者が言いやすい雰囲気作りをしている。		座談会にて意見の言える場を設けているほか、日常生活の中で対話等からも不満や思い等を引き出し、それを全職員で共有し運営に反映させていく。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理、健康状態、日常の様子等は毎月、または随時管理者、担当者からおこなっている。また職員状況等についても毎月のお便りの中でお知らせしている。家族の訪問時入居者の状況と合わせて管理者が報告している。	○	広報誌の発行を多くし、その中で施設状況や職員状況を随時お知らせしていきたい。今後の家族から疑問が生まれぬよう、機会あるごとに説明、報告をしていく。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱のせつりをしているが、中々利用でき	○	アンケート形式により、意見を表しやすいようにし
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、各棟の会議、各委員会の活動等で職員が意見を言える場を設けている。意見を活動につなげる努力はしているが、職員全体統一意識にはなっていない。	○	意見で終わらせるのではなく、取り組み内容を実行していくことが大切と思う。実行力を身につけることが今後の課題
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者により良いサービス提供ができるよう職員に理解を求め、協力的に対応できている。協力的ではあるが負担がかかる場合がある。施設だけでなく家族との協力体制も必要かと考える。	○	入居者の思いの実現のためには、家族のかかわりは重要と考える。家族と一緒に支えていくことが重要と考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時は入居者への説明を十分におこなっている。業務中職員は各棟の行き来の際にもコミュニケーションを常に図りながら入居者と顔なじみの関係作りをしている。全職員で意識して連携でおこなっている。		あさ、帰り全職員は必ず各棟の入居者に言葉がけを行い入居者に違和感なくかわりを持てるよう日ごろから実効している。入居者も自由に各棟を行き来している。
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力にあった研修会参加をうながしている。。また施設内の勉強会も開催している。研修後は復命会を開催し職員の周知に努めている。	○	研修後の復命書提出や報告会での発表等を迅速にできる意識作りができていない。これができて研修の意味があることを全職員は理解する。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者との関わりを次へのネットワーク作りへとつなげ関わりを活用し、サービス向上や取り組みに対しての実践の向上を図っている。	○	大きな取り組みとしてではなく少しずつ短い時間からの交流を序々に広げていければよいのではと思う。未だ地域同業者とは交流が出来ていないため今後は行いたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は毎日職員の健康面や、精神面に配慮しながら、言葉がけをしたり、職員のどんな話にも耳を傾けるよう意識している。職員の意見を聞く姿勢を持ち、業務に反映し、互いに刺激し合いながら前向きに仕事出来るようにしている。	○	日常的にその都度職員の意見を聞いたり、悩み、ストレス理解に努めている。休憩時間を確保できるよう声がけ促しをしている。しかし、中々内面を見せない職員もいるため、もっとオープンな雰囲気にする努力は必要だが、それが職場の緩みにならないよう各ユニットリーダーと連携で体制づくりをしていきたい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居者の担当、業務分担等目的を持ち仕事に取り組めるよう環境を整え、志をもって働くことができるようにしている。また仕事に前向きで資格取得をめざしている職員には、その努力を認める体制となっている。	○	体制作りをしているが、職員の意識レベルの向上を図ることが今後の課題、経験年数に応じた段階的な職場内外の研修が必要。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ。安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者、家族と直接面談の機会を設け信頼関係を築くことを意識しながらの対応をおこなっている。全職員が情報を共有する事を徹底していく。	今後も家族とは信頼関係を深める努力をしていく。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時ニーズに対し何が必要か見極める。すぐに対応できることは実行し、時間が必要であれば職員間で情報を共有し、意見交換しながら方策を検討している。	本人、家族の悩みや相談内容に親身に対応し絆を深めていく。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の望みを実現するために家族からの情報収集を全職員で共有し、その人にとっての安心できるサービス提供に努めている。	今後も尊厳を基本と考え、ご本人の望みをかなえるために私達は代弁者として、ご家族との連絡を密にし、関係を深めながら、その人の安心できる支援に努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の感情を否定することなく受け止め、理解し共感し、日々のケアに努めている。共に支えあいながら一緒に生活していると言うことを意識し、関係を築くことに努めている。主役は入居者であることを忘れずに、決して私たちの思い優先の支援ではないことを常日頃職員に伝えておる	職員は介護職としての有るべき姿を意識しよりよい関係作りに努めていく。入居者主体のサービス提供を忘れないこと。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にし家族の思いや感情を共にしお互いに支えあう関係を築くことに努めている。入居者は家族の一員であることを忘れてはならない。		その入居者、家族に寄り添った関係作りを見極め、連絡調整しながらお互い心をつなぐ「家族の一員として入居者」を一緒に支えていく関係の構築に努めていく。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者本人の状況を伝え、家族の思いや感情を共にし、家族の役割を奪わないよう配慮する。	○	本人の思いを重視しながらも、家族状況等を考慮した関係作りに努める。家族との連絡を密にし、家族との信頼関係を深め、信頼される関係をつくる。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人のこれまでの生活を理解し、馴染みの関係が途切れないよう、その機会や場面作りに努めそれを継続していく。近隣の人々とも日ごろから交流をもち、親近感を持ってもらう。	○	今後も一人一人の思いの把握に努めその中から、馴染みのものを見つけ出し触れ合う機会を設ける。近隣の協力を大切にしていく。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を職員は把握している。双方、よりよい関係が保たれるよう配慮し働きかけをおこなっている。		日常生活において色々な場面での関わりを申し送り等で情報交換し、その中から生まれる気づきを大事に皆で共有し、入居者同士が良い関係が保たれるようサービス提供につなげていく。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も行事等機会あれば関わりを持ち関係を大切にしている。		地域に一つしかない施設でもあり、地域に信頼されるためにも、サービス提供だけの関わりではない事を全職員が認識し、いつでも、どこでも、笑顔、あいさつを徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりんの思いや希望等、日々観察、把握に努め、それに向けた対応に努めている。難しい場合でも全職員で意見交換しながら対応に努めている。	○ 話の共感と受容に徹し、信頼を深めて本人の秘めている物を察知する姿勢が必要。(基本姿勢)
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを綿密に、本人や家族からの情報収集をし、その人の暮らしの把握に努めている。またプライバシーに配慮しながら、近隣の人からの情報収集もおこなう。	○ 普段の話の中から、その人の生活が見えてくるが多々あるため、職員は日常の会話を大切にしていける。それを皆で共有にて、きずきとして、生活に反映できるようにできる体制作り。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活状況や生活の中での気づきを職員同士タイムリーで話合ったり、記録することにより、入居者の生活のすべてを把握するよう努めている。	○ 生活全般を把握することによって、その人にはとって安心できる暮らしの実現のためのサービス提供ができるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにおいて、ニーズ把握とそれに向けた支援方法を皆で意見交換しながら介護計画を作成している。家族には、話の中で望んでいることや気がかりなこと等を聞き、皆で検討しサービス計画に反映している。	○ 計画に沿ったサービス提供がまだまだできていない部分があるため、今後は管理者が中心となり、職員の意識統一をはかりながら、同じ目標設定の下にだれでも同じサービス提供ができるよう取り組む。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスを開催し、職員からの意見を反映する場は整っている。その後の介護計画が決定するまでに時間をかけすぎるところがあるため、早めの計画立案と実施の取り組みが円滑にいくようにしていく必要がある。	○ 話し合いはおこなっているが、文章化を迅速にし、徹底していかなければならない。また、職員一体とまりサービス提供すること

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の日々の様子を記録し月末には、生活全般について気づきを含めて総合的に記録している。日々のケース記録は全職員が関わり、入居者の状況が把握できるものとしている。	○	記録は徹底されているが、そこからの気づきに繋がる体制が不十分、記録によって互いに情報を共有したらそこからの気づきや、そして統一支援に結び付くようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を考慮し、できるだけ希望に添う対応を取っている。それについての勤務交替等協力体制でおこなっている。	○	事業所は出来る限りの支援体制は常に取っているが、家族の協力も必要なときもある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各関係機関とは、行事あるごとに協力いただいている。ボランティアについては、広報誌等で呼びかけをおこなっている。年二回消防訓練や救急法（AEDの使用法）等実施		今後も地域とは協力してもらえる関係作りをしていく。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや関係機関とは日常的に情報交換をおこなっている。入居者に統一した支援提供ができるよう努力している。		地域のケアマネジャーや関係機関とは今後も情報交換を綿密に行っていく。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	最近では認知症のある在宅生活の方の支援についての情報共有をはかりながら、協力体制が序々できてきている。		今後は包括との連携を今以上に密なものとし、在宅で困っている認知症の方々の支援作りを協力体制で行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	風間浦診療所、大間病院とこれまでの受診状況を把握し、必要に応じた受診支援をしている。地域医療機関と連携を大切に関係を築いている。		今後も地域の医療機関とは良い関係を継続できるようにし、医療的分野での支援要請をしていく。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	風間浦診療所の医師が認知症患者に大変理解があり、家族からの信頼もある。様々な相談に対し親身に助言をくださり、入居者が施設生活が継続できるよう支援ができています。		今後もこの信頼関係を継続できるように努め、入居者、家族の要望に沿う対応を診療所と協力体制で実現していきたい。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は入居者一人一人の状態把握に努めている。介護員からの状態確認や、入居者の日々の健康観察に努め、主治医と連絡調整しながら通院、服薬等で健康管理をおこなっている。。	○	今後機能低下による体調管理体制の確立が早急に必要になっていく中、看護師の役割は重要になってくる。地域医療と連携にて入居者の健康管理を専門性を生かして看護師が積極的に取り組む体制作りをしていく必要がある。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前の施設での生活状況等を情報提供し、入居者が入院により、混乱が生じないよう医療機関との情報交換を綿密におこなっている。また入院中も職員が交代で面会し精神面での安定を図っている。	○	退院後の復帰に向けた、支援体制を連携で取り組んでいく。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての対応を本人や家族、主治医と話し合いを持ち、意思統一を図る。看護師を中心に全職員がそのことを周知しチームでの支援体制段階的に整えていく。	○	認知症の進行により、中々本人の意思確認が難しいところがあるが、段階的に本人の状況に寄り添った支援をチームが一つとなり、取組んでいきたい。本人の言葉や行動、時間等の詳細に記録していく。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の思いや家族の思いを考え、施設として出来ること、出来ないことを明確にし、主治医と連携で取り組んでいく。家族もチームの一人であることを自覚してもらう必要もある。	○	その時々々の状況に対応できるよう職員は、看護師を中心に色々な場面を想定し話し合いをおこなったり職員が混乱しないようマニュアルを作成していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人の情報提供を十分行う。また前もって訪問したり、本人への説明もおこなっている。家族の不安や気持ちを受け止めながら協力すること伝える。	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	本人のプライバシー自尊心を傷つけないよう言動には十分注意している。記録物の持ち出し禁止としている。	言葉使いの徹底を図る。
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	個人の状況を細かく把握していることからその時々への対応、声がけで自己決定の場を作っている。職員間の情報交換が頻繁におこなわれている。	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	その本人に合ったペースでの生活を支援することを心がけている。	一人一人の思いの把握に今後も努めていく。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人希望や状況にあった支援を柔軟におこなっている。地域のなじみの店に言ったり、買い物で好みの衣類を購入し自己選択や自己決定できる場でもある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好品を把握していることから本人の意思に添った食事提供をしている。可能な方には調理等準備を手伝っていただいている。		好みのものを購入を今後も継続。食事準備等でその人にとっての居場所の確保に努める。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品や好みの物を日常の会話から把握し、一緒に買い物に出かけて購入したり、家族から差し入れとして本人の希望にそった支援はできている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	機能レベルと、今までの習慣を把握した中から、本人が不快とならないよう、気持ちよい排泄ができるよう支援している。また常に自立支援を基本に極力本人の能力活用に努めている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者主体に入浴支援は出来ている。また色々な入浴剤を使用したり、浴室内の壁面を工夫し、リラックス気分で入浴できるよう取り組んでいる。各棟とも「なごみの湯」「いこいの湯」とネーミングすることにより、温泉気分を味わってもらうようにしている。	○	機能低下に伴い、入浴にも制限のある入居者に対する入浴法、楽しみ方を今後検討していかなければならない。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホールにはソファや、たたみ、ベットを用意し、自由に好きな時に休んでいただく空間があり、思い思いに安心できる場所がある。	○	ソファに休みたい入居者が多く時々トラブルになることがあるため、他にも安らぎの場所を確保していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中に、本人の今までの生活をいかして、軽作業等や、役割を習慣としながら、自ら行動できるよう、張りのある毎日に向けた支援している。	○	その人その人が望む張りのある生活に向け、支援が途切れることなく、毎日継続できるよう、職員の意識統一を図っていく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、本人だけでなく、家族の希望も考慮しながら、個々の能力に沿って対応している。管理できる方は、小額管理し、買い物も自由に出し入れをしている。		お金の自己管理については気を抜くことなく、職員間の引継ぎを徹底していく。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望した場合は、いつでも希望に沿う支援が出来ている。いつでも近所に自由に出かけられる環境は整っている。	○	近所に一人で出かけた時でも、近所の見守りや声かけが受けられ、施設と地域で連携で支えて行く体制作りが課題である。具体的には今後検討が必要
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年は入居者の希望もあり、念願の一泊旅行が実現できた。来年はどこに行くのかと入居者からは目的意欲と次への期待感と生まれた。レベルに応じて遠出が無理な入居者は近いところに出かけ気分転換を図っている。外出の際はご家族にも声かけし、参加いただくときもある。	○	その人その人のレベルに合った、その時その時の楽しみを入居者の希望を聞きながら、見つけ今後はもっと柔軟な外出支援をしていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は手紙を自ら書いたり、こちらで代筆にて手紙のやり取りを行っている。電話も自由にかけていただいている。	○	文字が中々かけなくなっている方に絵で表現した、暑中見舞いや、年賀状作りをおこなってきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	地元の入居者は家族や、知人がいつでも訪問の協力してくれるが、遠方の入居者の家族等は中々訪問なく、入居者とさびしい様子がある。電話等での働きかけはいつも行っている。	○	家族や知人とのつながりを切らさないよう、本人から家族への思いを直接電話や手紙等で表し家族の役割を忘れない取り組みをしている。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本は身体拘束のない自由な生活を基本に掲げている。研修で身体拘束に対する知識の習得や会議等で、入居者の自立を支援するためには、何が拘束になるのか等具体的に話し合い、機会あるごとに職員に周知し、身体拘束のないケアの取り組みを実践している。	○	身体拘束のない取り組みについて、職員のレベル段階にそった勉強会が必要に思う。安全確保のためには止む無く拘束に近い状態になる時は、家族の承諾書や、その理由や期間等詳細に記録するなど一連の取り組み体制も理解し、拘束によっての本人への影響等を十分に考えた職員の意識作りが必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本は玄関や各棟の出入り口等の施錠はしないこととしている。戸外の出入りも自由としているが、玄関にチャイムを取り付け、戸外に出たことが察知できるようになっている。		行動範囲の広い入居者については、所在確認表に30分単位で所在を確認し、行動観察を記録したり、タイムリーで職員が連携で伝達している。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤帯、夜勤帯を通して、いつでも緊張感を持って入居者の行動観察と所在の確認、職員関連系の伝達は出来ている。	○	身体レベルの高い入居者が多くなっているため、日勤帯の所在確認強化が今後は必要である。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人が必要とし、愛着のある物品については、手放すことは、極力リスクを少なく個人の能力にあったものを身の回りに設置できるように家族等の協力をもらいながら危険のない環境に整えていく。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	能力低下に伴い今後益々、事故対策は必要と思う。現在は看護師を中心に施設内での勉強会や消防署協力による救急救命法の訓練を実践している。	○	緊急時にあわてないためにも、日ごろから各棟で金連をかねた勉強会を実施していく。年2回の消防訓練のほか、施設独自の訓練の実施
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制や急変時の対応は整っている。	○	応急処置については、慌てると中々スムーズに気行かないことがあるため、日ごろから訓練しておく。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	推進委員を中心に、地域の消防団の協力が得られる体制が整っている。	○	実際に災害時の避難訓練や緊急時の入居者避難の協力等訓練として行ってみる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の自立支援を主体とした支援の中にはリスクは避けられないこととして、家族には説明と理解をいただいている。	○	機能段階に沿ったリスクの説明には家族からは理解してもらっているが、今後も信頼関係を保ちながら入居者が自由な生活の中のリスクについて、家族への働きかけは続けいく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックと個々の健康状態の把握、職員間の情報の共有化は毎日の確実にやらなければならないこととして、職員は自覚している。状態に異変が生じたときは、看護師に指示を仰ぐ体制は整っている。	○	職員の経験不測から、状態の入居者の体調不良の発見に不安があるため、職員の一人ひとりの入居者の健康状態の把握と、必要な医療知識の習得が必要である。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬については、副作用や服薬についての注意点等常日頃指摘あり、また看護師は、入居者の不安にも丁寧に薬の効能等説明し、入居者が安心して服薬している。また誤薬の内容徹底した管理を実施している。(マニュアル化)	○	薬の管理、副作用等知識を身につけていく。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便周期をしり、入居者が排便により、毎日気持ちよく生活できるよう支援している。便秘対策として、運動促進や、食物の工夫、水分量の把握に努めている。		便秘のない、快適な排便により、日常生活が快適であるよう今後も支援していく。自然排便の促しは継続していく。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清潔には気を使うところであるが、自力での口腔洗浄により、残存機能活用に取り組んでいる。	○	舌苔も口腔汚染の原因であるため、自力洗浄後は、職員が確認していく。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を毎日記録し、一人ひとりの摂取状況の把握に努めている。また毎日の体重測定により、栄養状態の把握に努め、一人ひとりの好みを取り入れた食事意欲のわく食事支援をしていく。	○	入居者の機能に即した、食事形態と食事習慣の把握により、毎日の食事を美味しくいただくよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設独自のマニュアルに即して取り組みを実施している。	○	マニュアルの見直しを検討中
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器の熱湯消毒、食材の賞味期限の確認、台所周辺の消毒、冷蔵庫の消毒等、徹底している。また6月から10月までは生ものは施設では禁止としている。何よりもそれを扱う職員の手消毒や、食事用のエプロン着用の徹底を促している。		これから感染症が流行する時期でもあり、基本的なことの徹底を今後も図って生きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	シンプルではあるが、毎日の清掃により清潔な印象となっている。花壇は入居者が中心で手入れをしている。全体に落ち着いた雰囲気ではあると思う。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地の良い空間作りには配慮している。各棟とも入居者の手作り作品を中心に季節感ある壁面装飾を行い、入居者にも好評である。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で、テーブルを移動したり、ソファの位置がえを行い、入居者の行動を制限することなく自由な配置換えにより、気の合った入居者同士の空間作りを行っている。		入居者の行動観察をしながら、入居者同士のつながりを大切に空間の確保に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の居室空間を本人や家族と相談しながら、必 要なものや使いたいものを自由に持ち込んでもら い、安心して暮らせる生活の場になるよう取り組 みをしていく。	○	馴染みのものやこだわりのものがあれば今後も本 人や家族から情報収集しながら持ってきてもら い、本人の生活空間を整える。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	入居者が気持ちよく生活するために、こまめに換 気や温度調節をしている。	○	体温調節がうまくいかない入居者に配慮し今後も 温度や湿度調節や、換気に努めていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の身体機能レベルの把握と、健康状態や意欲 等を考慮しながら、安全面に留意しながら、自立 支援の促しをしている。	○	リハビリ運動や、リズム体操、軽作業等、身体活 動を生活一部として定着させ、皆がレベル低下防 止に取り組んでいく。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	思いをうまく表現できなくとも、本人の自主性を 尊重し、力が発揮できるよう待つ支援に徹し自立 を促している。	○	時間がかかっても、本人の力の発揮と自主性の尊 重により、自力で暮らせる支援体制の確立
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ホールでのレクレーションや趣味活動、或いはお 茶会等でコミュニケーションの場として広く活用 している。また地域交流の場としても幅広く活用 している。	○	広い施設を歩行運動等や手すりを利用してスク ワット運動を行ったり、リハビリ的活用もしてい る。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・今年度は『笑いのあるいきいきとした生活』を目標に掲げ、午後の時間を「いきいきタイム」と証して、毎日単調に過している入居者の方々にストレス解消のためにも運動をベースにした活動を取り入れています。リズム体操や、リハビリ効果のあるスクワットなど個々の能力に沿った取り組みの実施、また温泉地域でもあるため、自宅では温泉に入る習慣のあった入居者が多いため、各棟浴室にネーミングし「いこいの湯」「なごみの湯」なずけて暖簾をさげたり、入浴剤の工夫により、温泉気分を味わいながらの入浴に楽しみを見出し支援をしています。また地域で認知症のために生活に不便を感じている方のために、地域の要望もあり、共有空間を利用したデイサービスを行っています。現在は2名の認知症の方に利用していただいています。開設3年目になりますが、年々夏祭りの地域住民の参加が多くなり、今年も地域の方々から時間が足りないという声を頂うほど盛況のうちに終了できました。地域に序々に浸透していることを実感しました。地域に一つだけの認知症施設として、地域からの信頼を損ねることなく、地域と一体となり認知症の専門施設となれるよう、自己の能力を高め、その人の生活のあり方にかかわれることを「新鮮」にそして「幸せ」と思って取り組んでいきます。職員は地域でいつでもどこでも、笑顔で挨拶をモットーに生活しています。